

第一軍管地方二万分一迅速測図原図図式

【明治13年（1880）～明治19年（1886）】

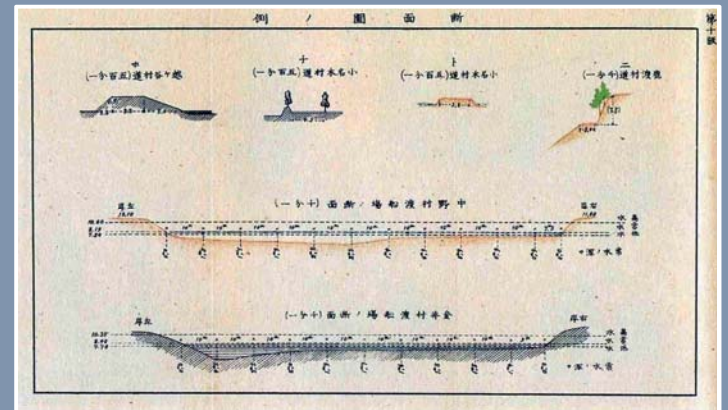
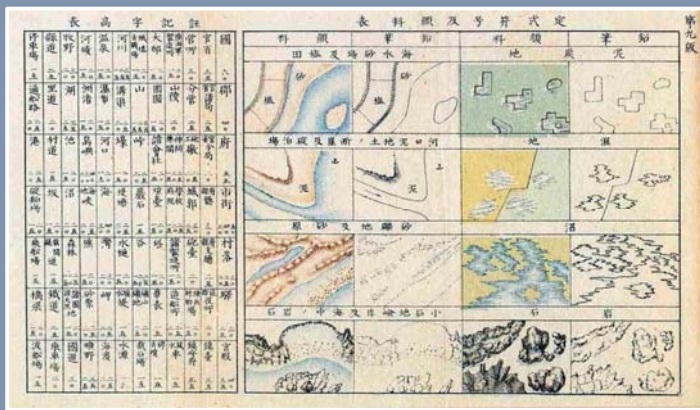
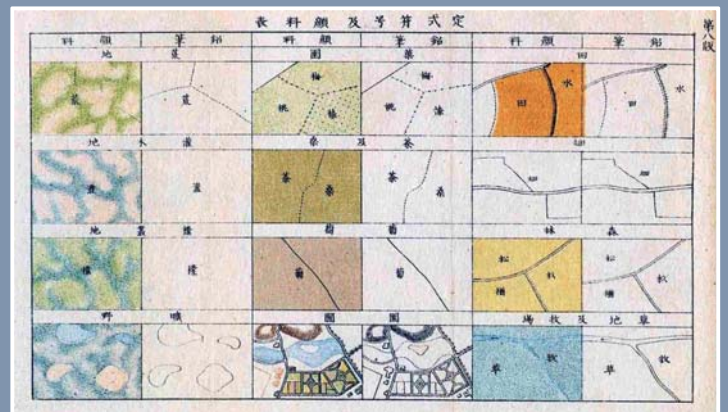
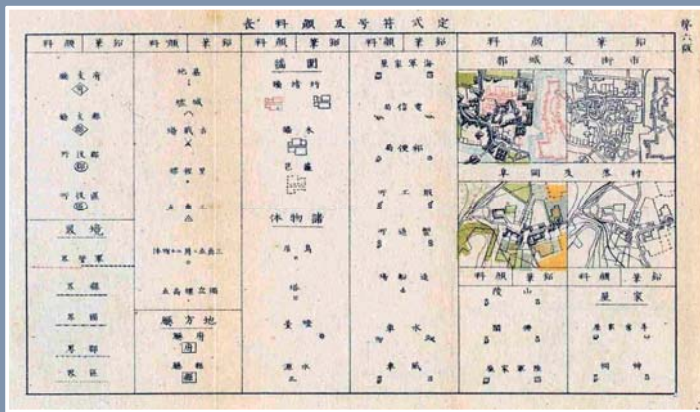
迅速測図原図の図式はのちに「明治13年式図式」と呼ばれていますが、当時は「図式」という用語ではなく、地形図測量の作業規程であった「測量軌典(明治14年 陸軍文庫刊行)」および付図の「定式符号及顔料表(定式色号表)」に定められていました。

「測量軌典」の「緒言」に「…測繪の法式に至ては仏国砲工学校の教科に準拠す…（原文は旧漢字カナ使い）」とあり、この「図式」は「フランス式」や「渲彩（せいさい）式」とも呼ばれています。この「図式」の記号の数は全部で約95種からなり、各記号は所定の色と3段階に区分された太さの線によって表現されています。

道路は国道、県道、里道、村道、小径に区分し黒色で表現、家屋は木造は黒、塙工家屋(かんこうかおく：レンガや石製の家屋)は紅色で表現されています。植生記号はなく、田は黄色、桑畑は黒茶色、茶畑は茶色、森林は緑色などに彩色、樹種などを文字で補足しています。水部は藍色で着色、地形については5m間隔の褐色等高線で描かれています。

また、図郭外側に風景のスケッチや河川の横断面図が描かれているものもあります。

参考：陸地測量部沿革誌(1922年)・地形図集(国土地理院技術資料 1984年)

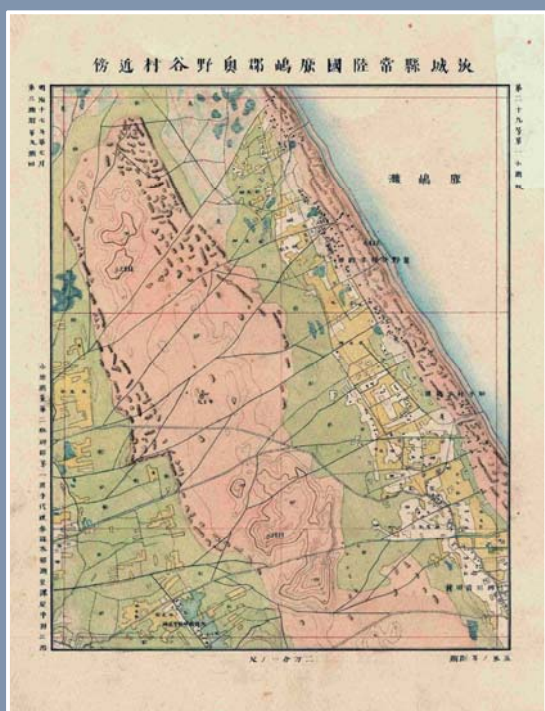


第一軍管地方二万分一迅速測図原図①

第一軍管地方二万分一迅速測図原図（以下「迅速測図原図」という。）は、陸軍の参謀本部が明治13年～19年にかけて関東平野のほぼ全域と房総半島及び神奈川県東部について測量した、縮尺2万分1の地図です。

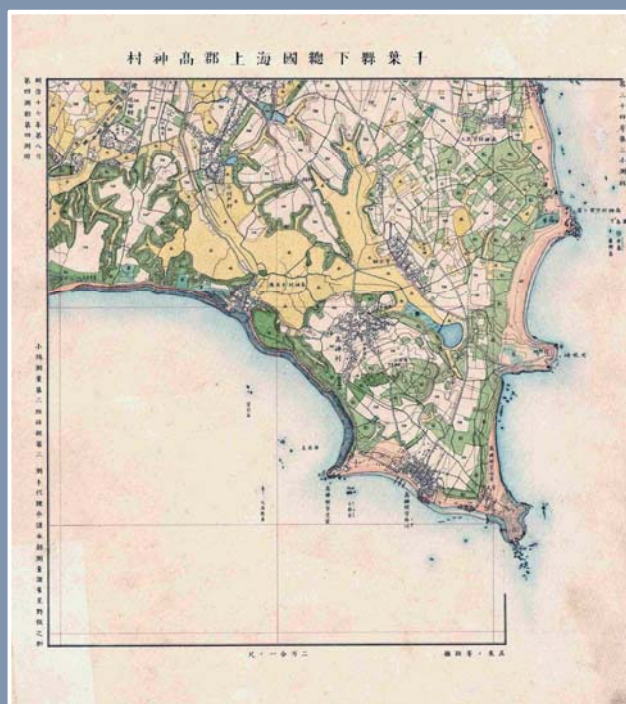
迅速測図原図は2万分1地形図の全国測量の第一歩として、関東地方を対象に正規の三角点成果に準拠しない、図解法による図根（ずこん）測量を行い、これを基準として細部測量を行う迅速測図法によって作製された平板測量原図です。

基準点を皇居富士見櫓（ふじみやぐら）（内務省地理局東京府下三角測量基準点）に定め、ここを中心として明治13年（1880）に「東京府南足立郡花又村」（現足立区花畑附近）から測量が開始され、同19年に完了するまでの間に921面が作図されました。これは近代的測量方法によって広い地域を測量した地形図としては、わが国最初のものです。



茨城県常陸国鹿嶋郡奥野谷村

神栖市北部が描かれています。海岸砂丘から続く台地が確認できます。集落や畑が海岸沿いに点在していますが、現在は鹿島臨海工業地帯の造成により地形は大きく変わっています。



千葉県下総国海上郡高神村

現在の銚子市犬伏崎周辺が描かれています。海岸段丘上は広く開墾され田畑が広がっています。集落が所々点していますが、漁港らしき設備は外川集落以外確認できません。西側は埋め立てられる以前の海岸線を窺うことができます。

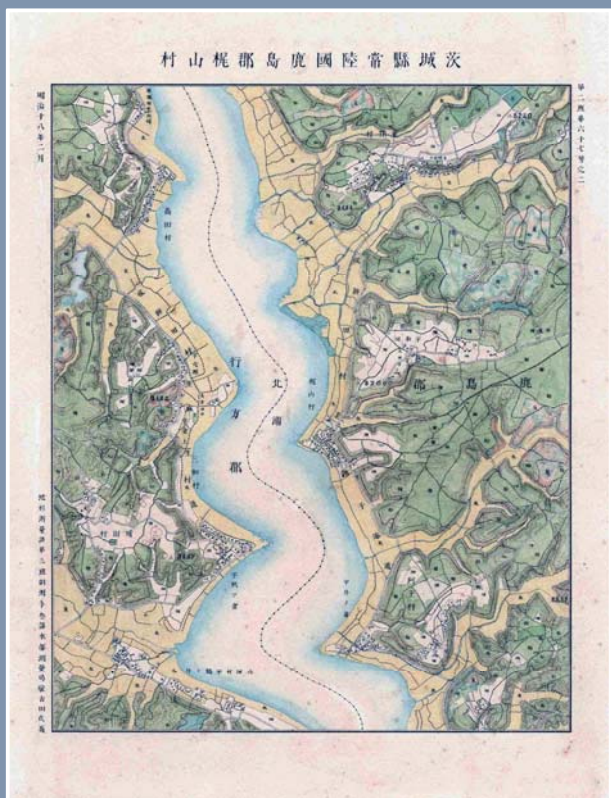
この迅速測図原図は後に「明治13年式図式」と呼ばれる「定式符号（ていしきふごう）」に基づき、図式はフランス式を採用し、等高線による地形表現と、水彩絵具による彩色を加えられた町並みの状況や田や林を巧みに彩色してあります。見た目にも美しく、江戸の面影をそのまま引き継いでいた明治前期における関東地方の状況を知る手がかりであるともいえます。

原図によっては、図郭外に補図として大縮尺平面図、河川と橋梁の断面図、神祠（しんし）、街道や家並みなどの目標物のスケッチの「視図（しず）」が添えられているため、当時の景観をよりうかがい知ることができます。

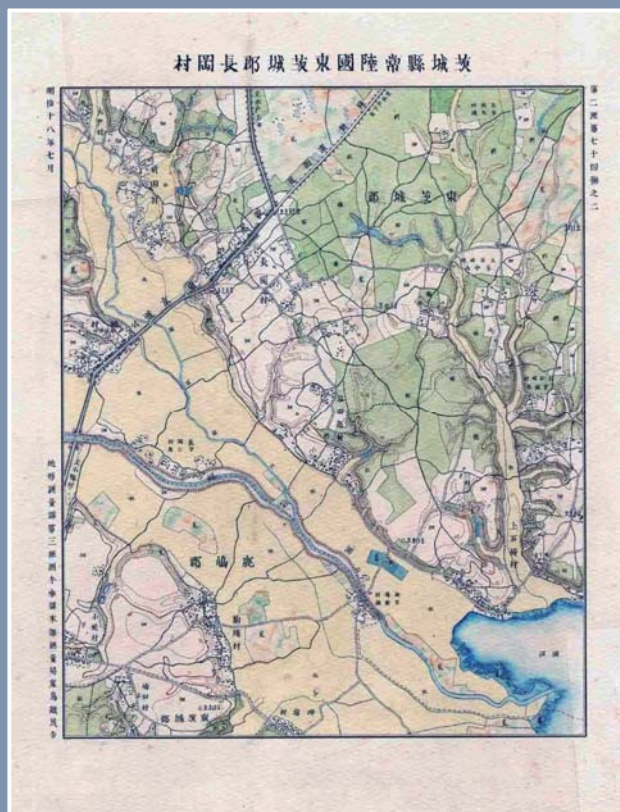
一面当たりの大きさは、縦25cm×横20cmで隣の図との間に重複部分があります。

なお、この迅速測図原図は正規の測量方法に準拠していないため、図郭の経緯度が表示されていません。

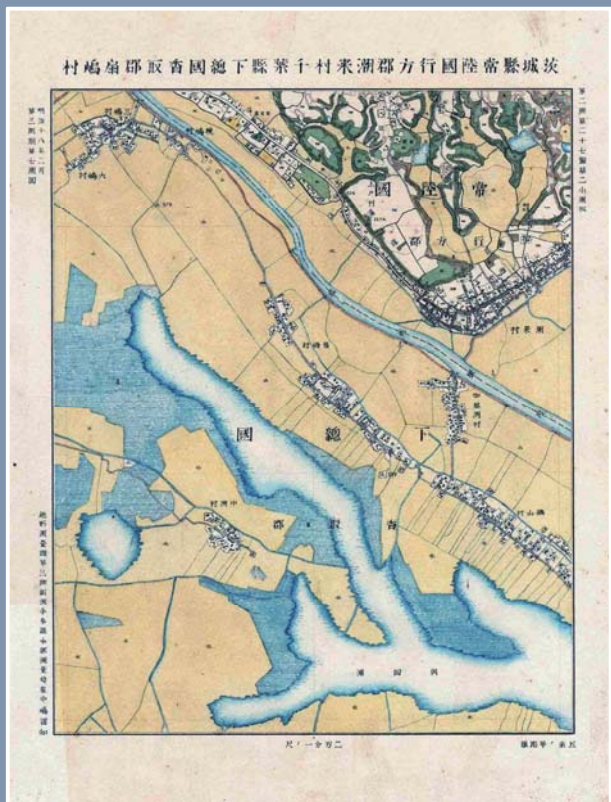
第一軍管地方二万分一迅速測図原図②



茨城県常陸国鹿嶋郡梶山村

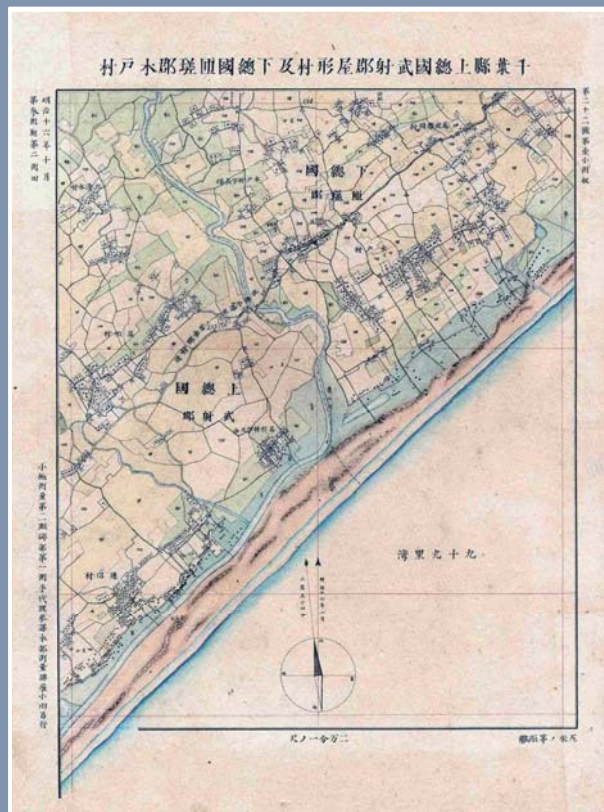


茨城県常陸国東茨城郡長岡村



茨城県常陸国鹿嶋郡潮来村・千葉県香取郡扇嶋村

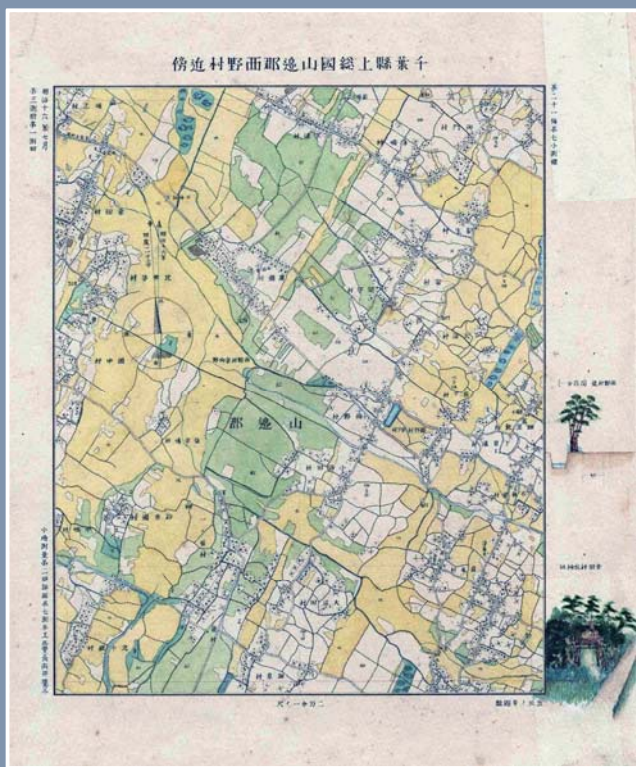
現在の潮来市と利根川を挟んで香取市にかけての地域です。香取市側に與田浦と名のついている湖沼が大きく広がっています。現在も与田浦として残っていますが、かなり小さくなっています。千葉県側は全く起伏のない平原が続いています。



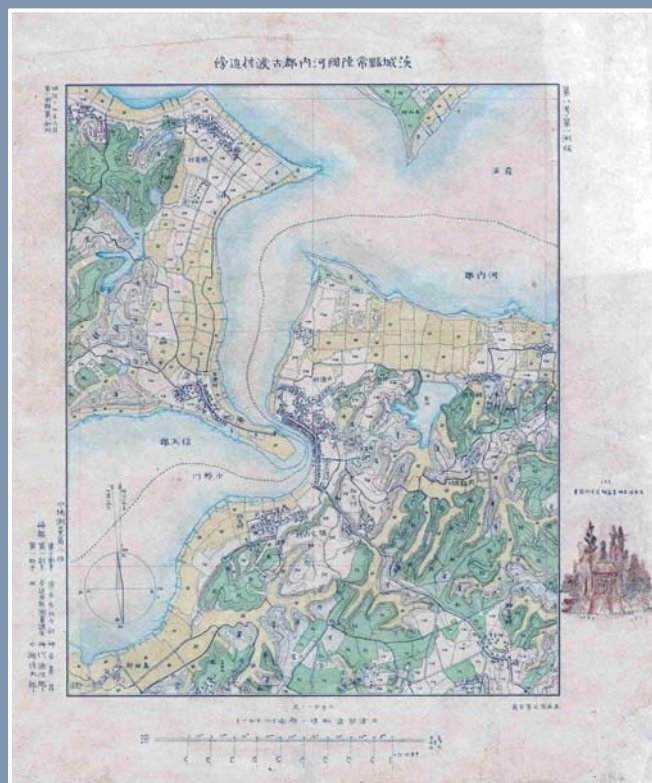
千葉県上総国武射郡屋形村・下総国匝瑳郡木戸村

現在の横芝光町から山武市にかけての地域です。当時から地形や土地利用は現在とあまり変化がありませんが、栗山川の流れが現在と異なり、海岸線と平行に図郭外まで続いています。

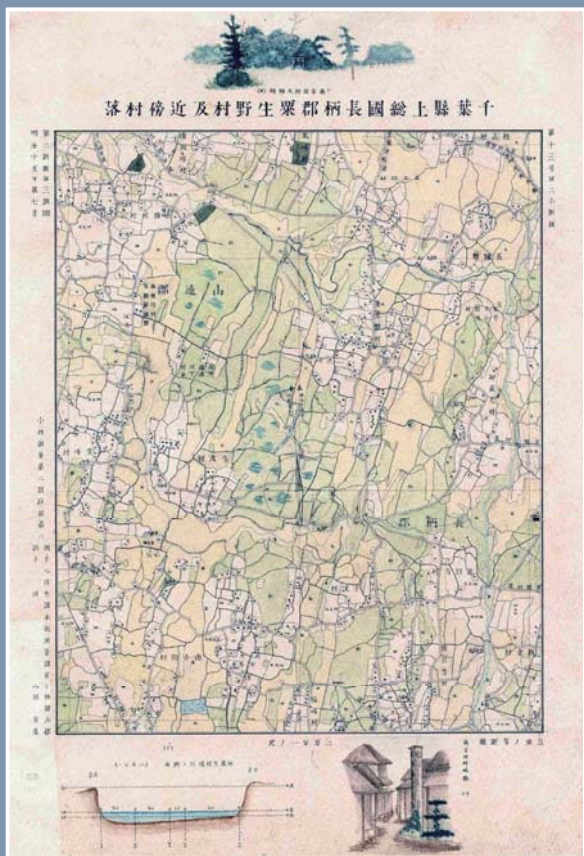
第一軍管地方二万分一迅速測図原図③



千葉県上総国山邊郡西野村

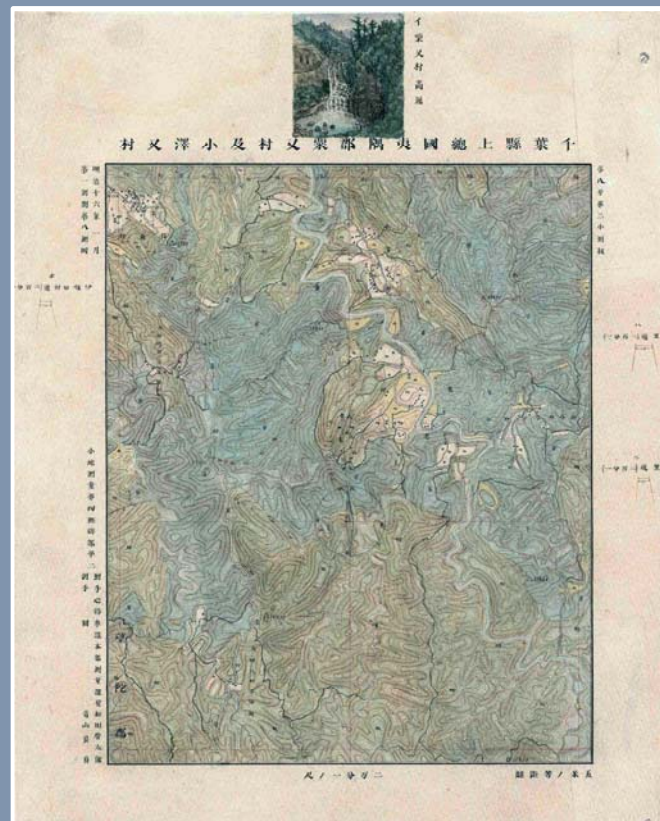


茨城県常陸国河内郡古渡村



千葉県上総国長柄郡栗生野村

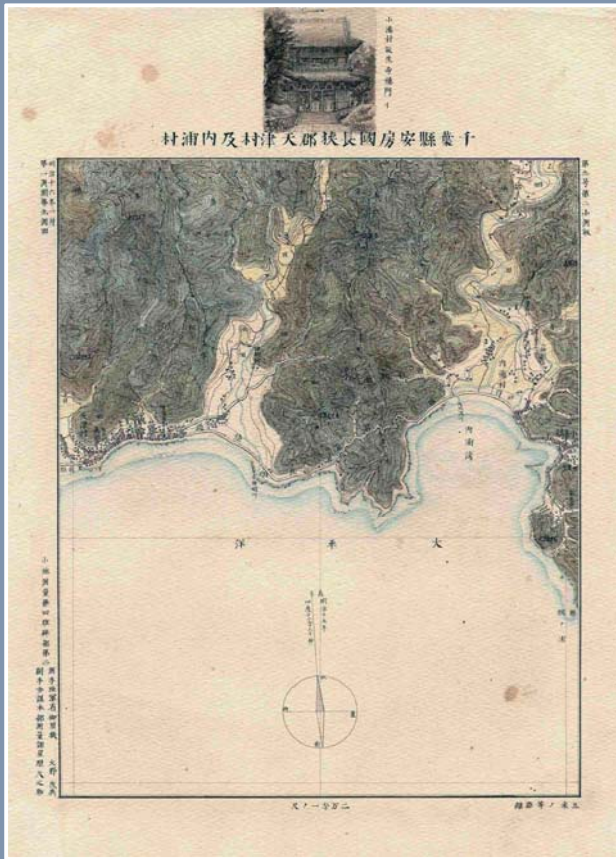
現在の茂原市から大網白里市の範囲です。枠外にイラストとともに境川の断面図が描かれていますが、境川とは現在の南白亀（なはぎ）川です。九十九里平野の一角で、当時は平地林が目立ちますが、現在は水田が大きく広がっています。



千葉県上総国夷隅郡粟又村

図の枠外に粟又の滝の絵が描かれています。図中に真北線及び磁北線も描かれています。この辺りの地形は現在とあまり変わっていません。標高は低いものの丘陵でなく山地の様相を呈しています。

第一軍管地方二万分一迅速測図原図④



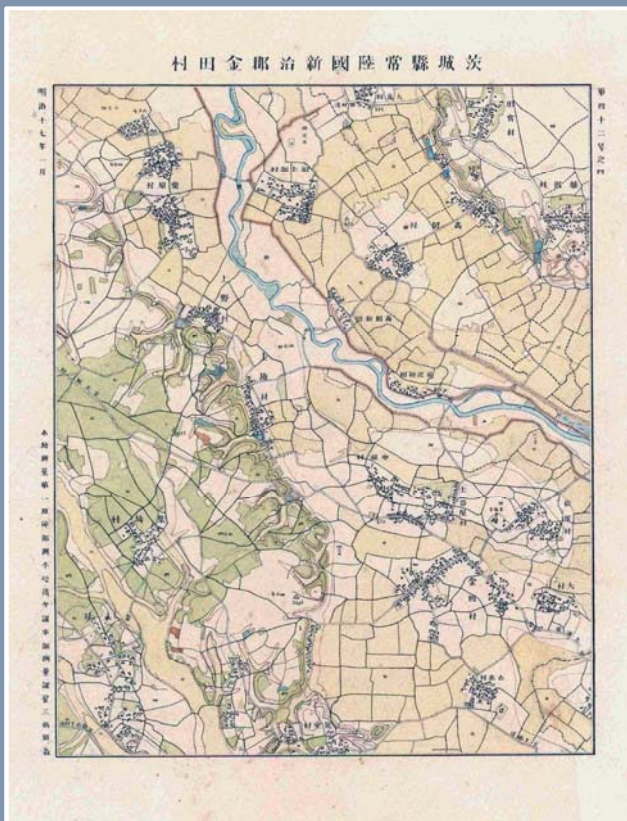
千葉県上総国長狭郡天津村・内浦村

現在の鴨川市小湊周辺です。海岸沿いに天津村の集落が目立ちますが、小河川の沖積平野に沿って家屋が点在する農村です。当時からの名刹である誕生寺の楼門が描かれていることが特徴的です。

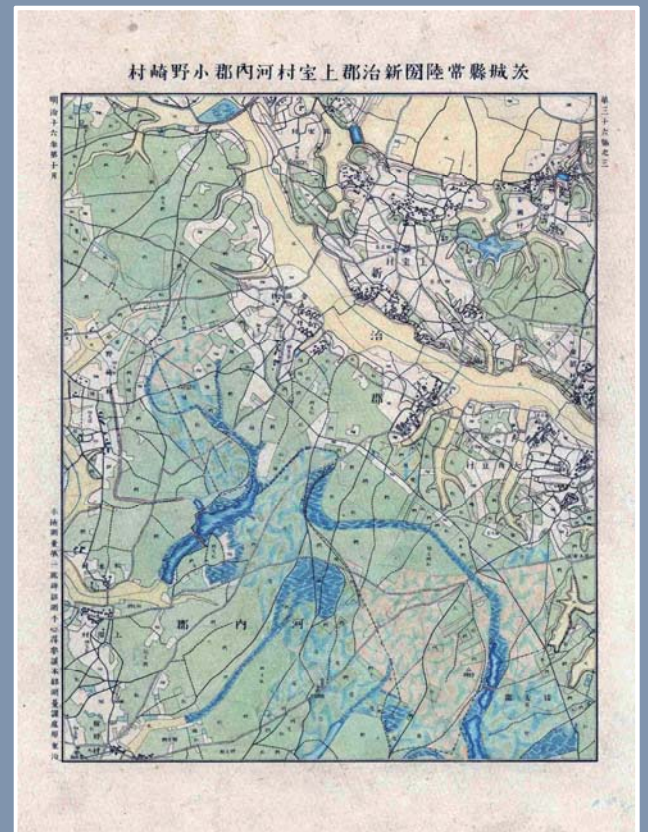


茨城県常陸国玉取村・東平塚村

国土地理院の辺りの図です。猿壁・弥平太・東平塚・西平塚・遼東など今も当時の地名が残っていることが確認できます。これらの集落の周りは平地林や畑だったことが分かります。

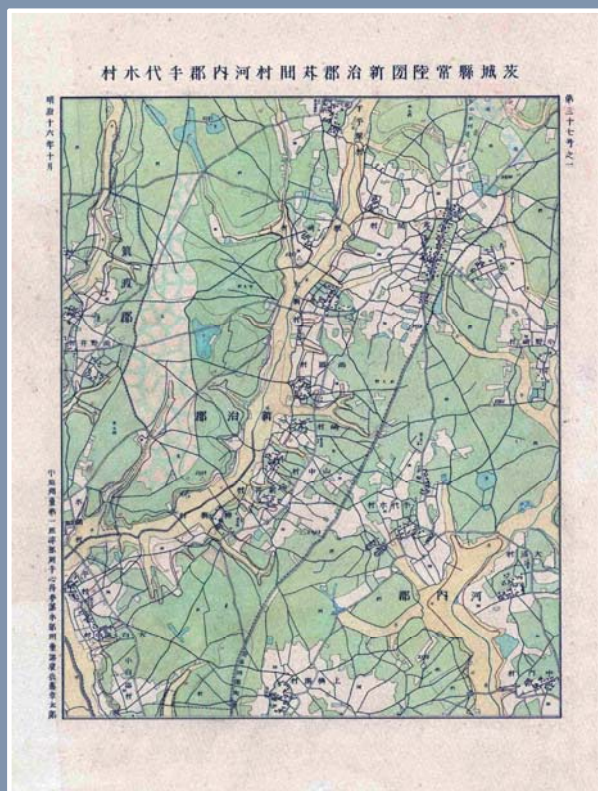


茨城県常陸国新治郡金田村

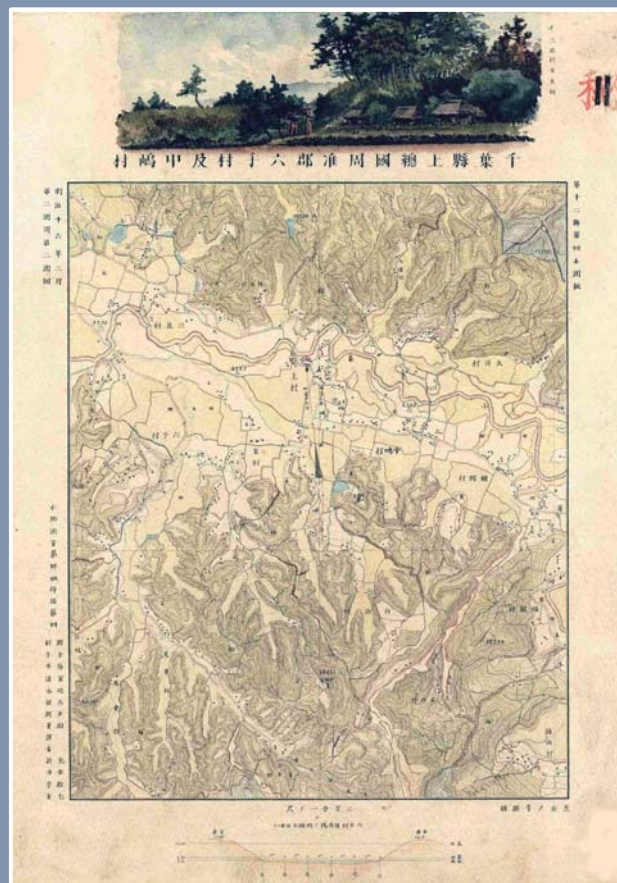


茨城県常陸国新治郡上室村・河内郡小野崎村

第一軍管地方二万分一迅速測図原図⑤



茨城県常陸国新治郡苅間村・河内郡手代木村



千葉県上総国周准郡六手村・中嶋村



千葉県上総国望陀郡木更津村

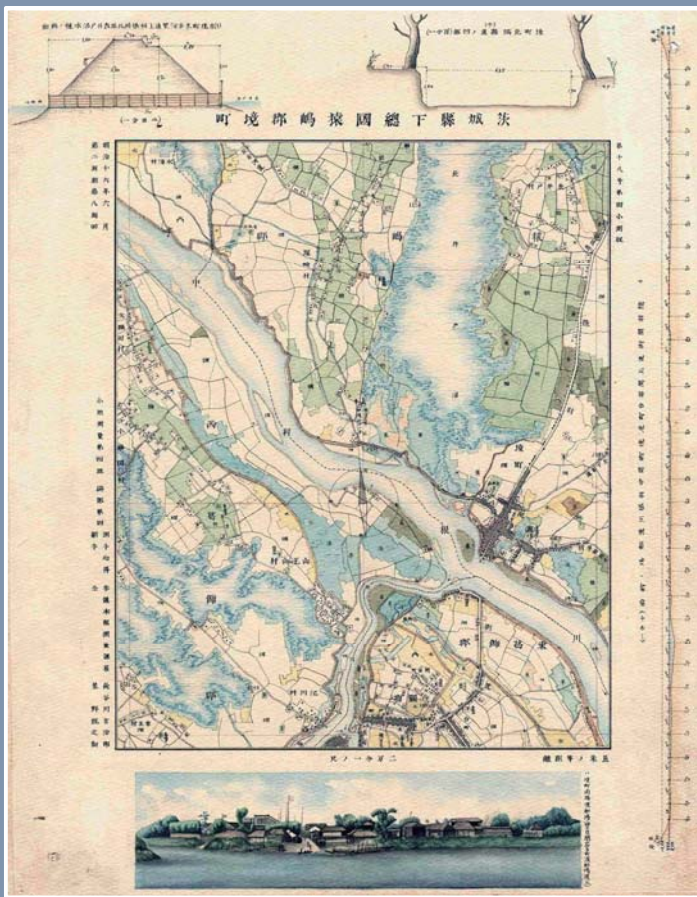
現在の木更津付近の海岸線とはかなり様相が異なります。千葉や館山方面を結ぶ幹線道路がはっきりしませんが、安房西街道という東西に走る幹線道路が確認できます。



千葉県安房国長狭郡貝渚村・天面村

現在の鴨川市太海付近の図ですが、今の仁右衛門島は波太島、鴨川漁港付近は貝渚村という表記があります。弁天島などの小島が枠外に描かれています。

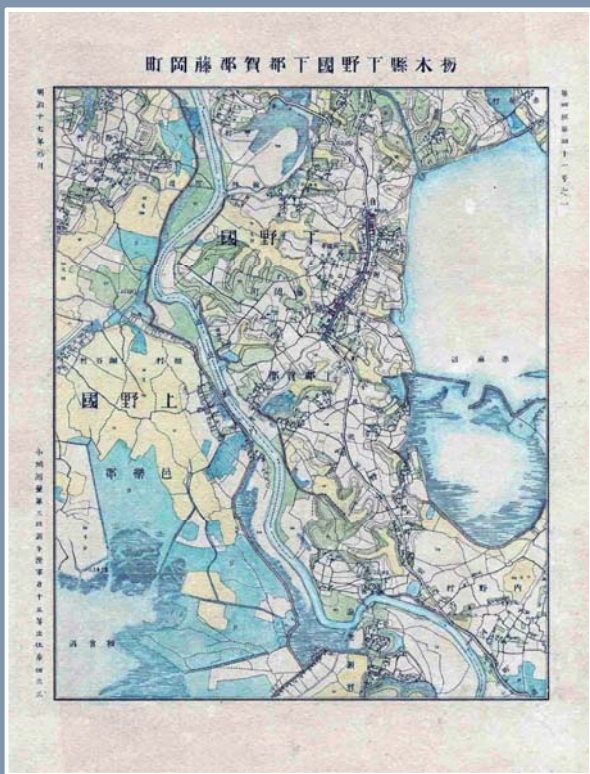
第一軍管地方二万分一迅速測図原図⑥



茨城県常陸国猿島郡境町

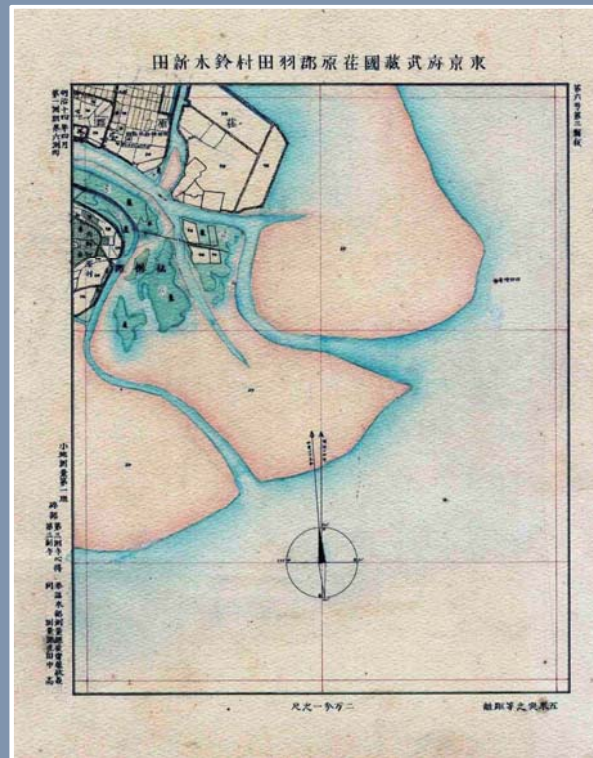


東京府牛込区



栃木県下野国下都賀郡藤岡町

現在の渡良瀬遊水地西側に当たります。渡良瀬遊水地の湿地帯に、当時は赤麻沼という大きな沼があり、群馬県側にも板倉沼がありました。現在の板倉沼は住宅地になり大学が進出も見られます。現在栃木県と群馬県の県境が複雑に入り組んでいますが、当時も渡良瀬川の流路が県境ではなかったようです。



東京府武蔵国荏原郡羽田村

現在の羽田空港付近です。多摩川河口の両岸が砂州となっており、左岸（東京側）では干拓地と貸しき土地に畑の記号が見られます。現在の景観からは想像もつかない程の変化が読み取れます。沖合には羽田灯台も確認できます。

第一軍管地方二万分一迅速測図原図⑦



神奈川県武蔵国久良岐郡横濱区

現在の横浜市中心部ですが、現在の関内付近を中心に市街地が広がる一方、当時東洋一と謳われた貿易港の様相はまだ窺えません。桜木町から今の横浜駅にかけての海岸線は埋立てが行われていますが、本牧付近は半島状の地形と砂州が見られます。また、根岸付近には当時は珍しいであろう競馬場が描かれています。

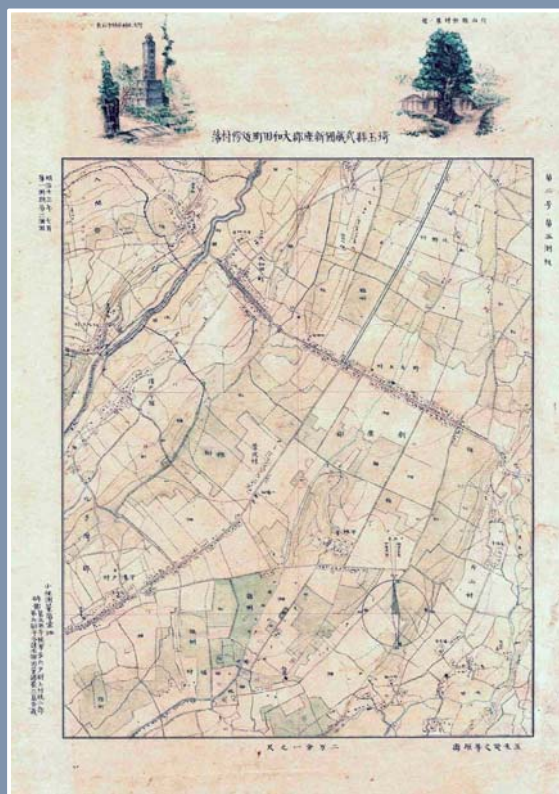


神奈川県武蔵国橋樹郡青木町及び羽澤村

横浜駅から新横浜駅周辺が描かれていますが、東海道に沿って家屋が連坦している以外は、丘陵地とわずかな田畑が見られる寒村の様相です。枠外に注記があるとおり大きな往来（幹線道路）がほとんど整備されていません。現在とは隔世の感があります。

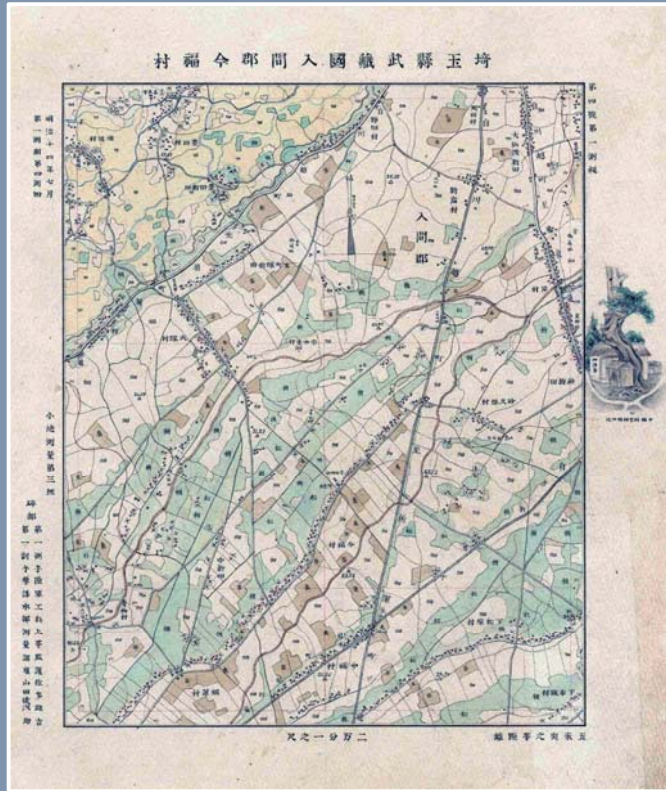


神奈川県武蔵国都筑郡川島村・二俣川村

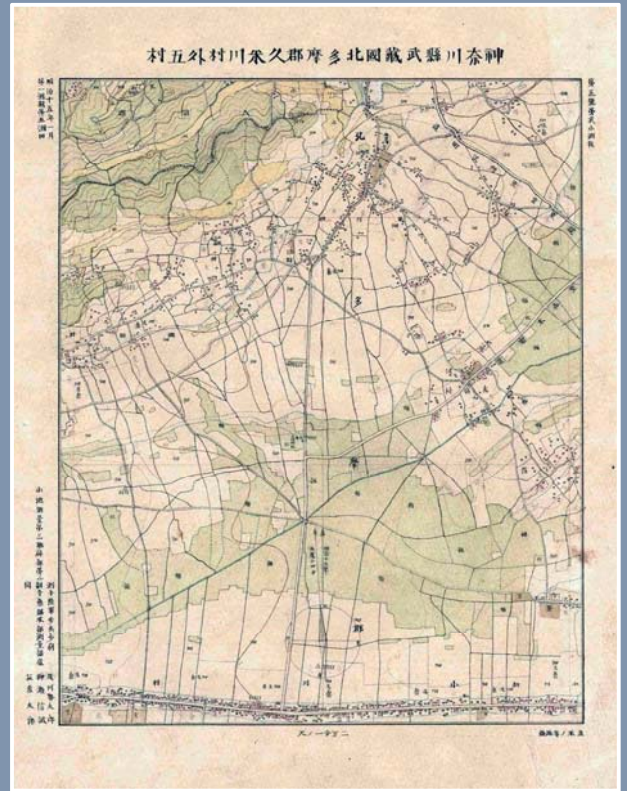


埼玉県武蔵国新座郡大和田町

第一軍管地方二万分一迅速測図原図⑧



埼玉県武蔵国入間郡今福村

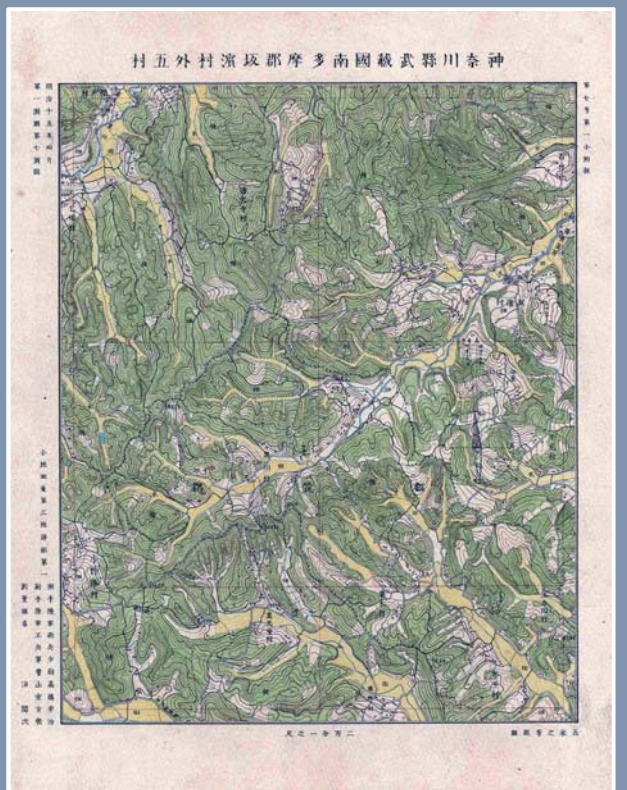


神奈川県武蔵国北多摩郡久米川村外五村



神奈川県相模国鎌倉郡品濃村・上柏尾村

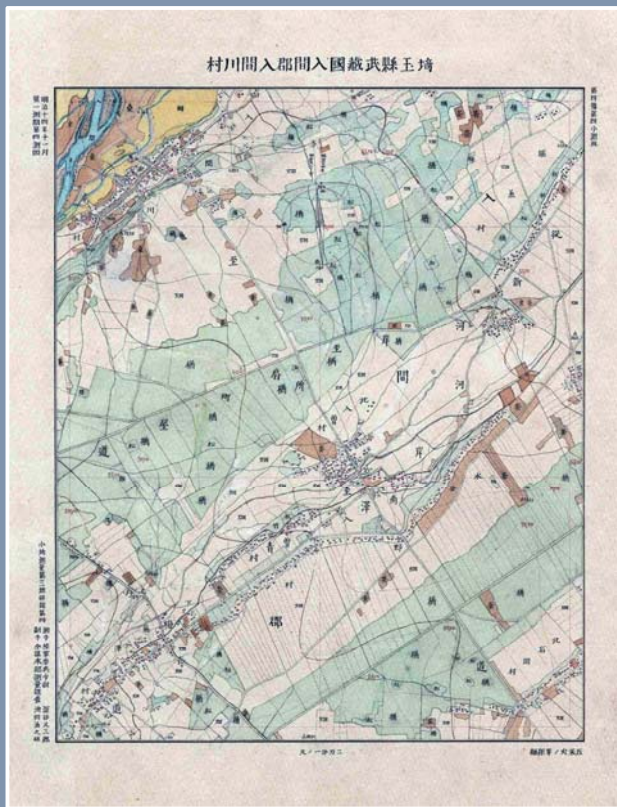
江戸時代から続く東海道沿いに建物が目立ちます。道筋から離れたところは、丘陵を刻む谷沿いに集落が点在する様が見られます。図の枠外に街道沿いの茶屋と大山街道の分岐点の絵が描かれています。現在の横浜市保土ヶ谷区から戸塚区にかけての地域ですが、大部分が市街地に変わっています。



神奈川県武蔵国南多摩郡坂濱村外五村

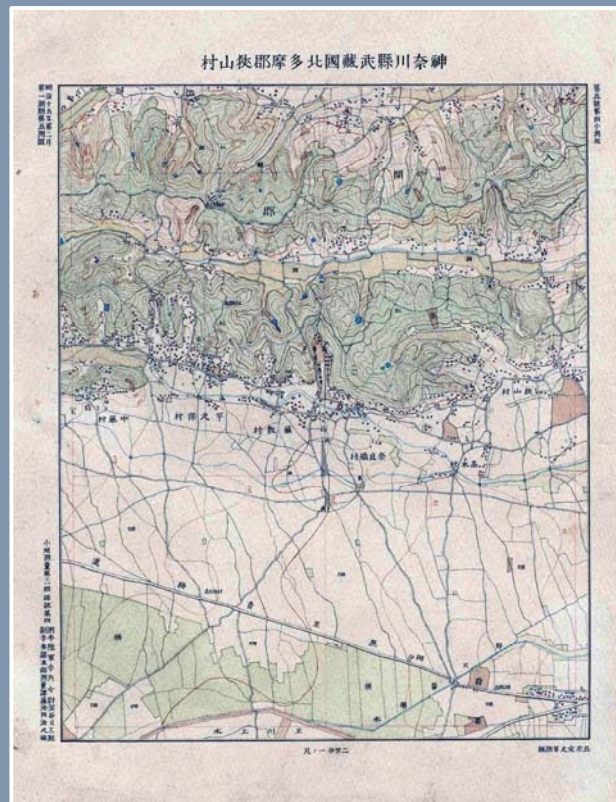
現在の町田市から川崎市麻生区にかかるエリアが描かれています。丘陵地と谷間のわずかな集落が見られるだけの農村地帯で、谷に沿って谷戸と呼ばれる細長い形状の水田が広がっています。現在は新興住宅街が大部分を占めており、所々に丘陵地が残る程度です。

第一軍管地方二万分一迅速測図原図⑨



埼玉県武蔵国入間郡入間川村

現在の狭山市とその周辺地域です。南西から北東にかけて低くなる台地で標高は50~100m程度です。所々に集落が点在していますが、榎などの平地林と区画された畑が広がっています。この地域の特産品である茶畑も見られます。



神奈川県武蔵国北多摩郡狭山村

図の北の部分は現在埼玉県所沢市、その南は東京都（東和市・武蔵村山市等）ですが、当時は神奈川県になっています。南の台地上の平地は広大な畑や林が広がっている一方、集落は山裾や丘陵の谷間に多く立地していることが特徴的です。その丘陵の谷間は現在村山貯水池（通称多摩湖）になっています。



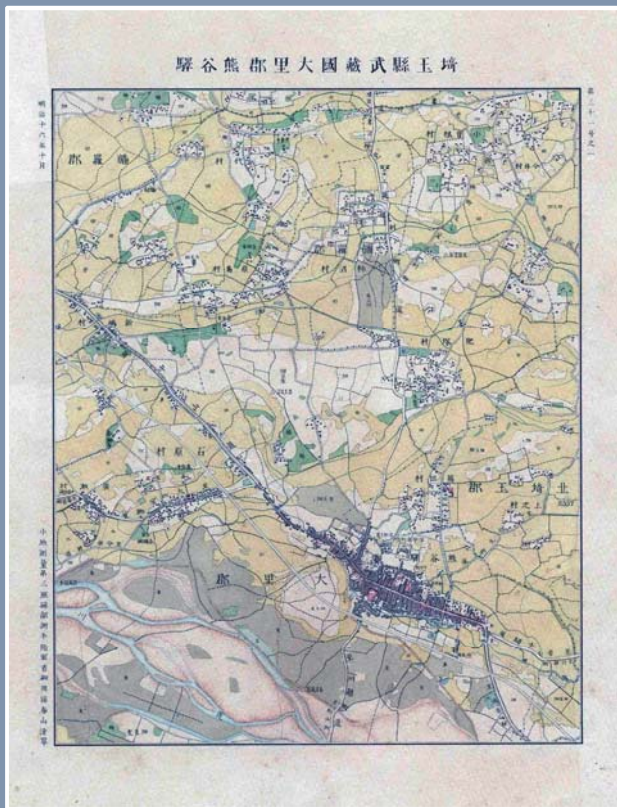
神奈川県武蔵国北多摩郡砂川村



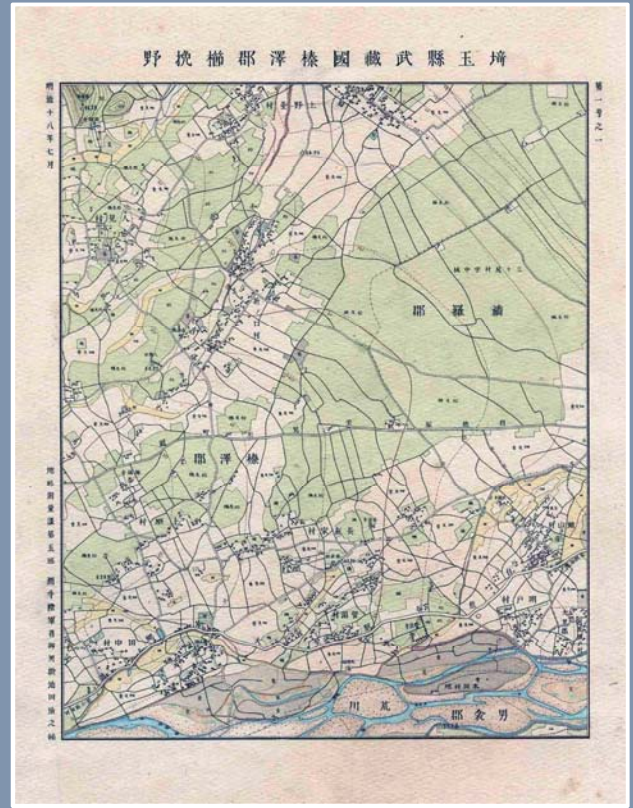
神奈川県相模国鎌倉郡片瀬村

当時からの陸繋島である江ノ島が分図に描かれています。江ノ島の集落は門前町らしいことが分かります。本土の鎌倉側は集落が発達していますが、藤沢側は原野や荒地が目立ちます。

第一軍管地方二万分一迅速測図原図⑩

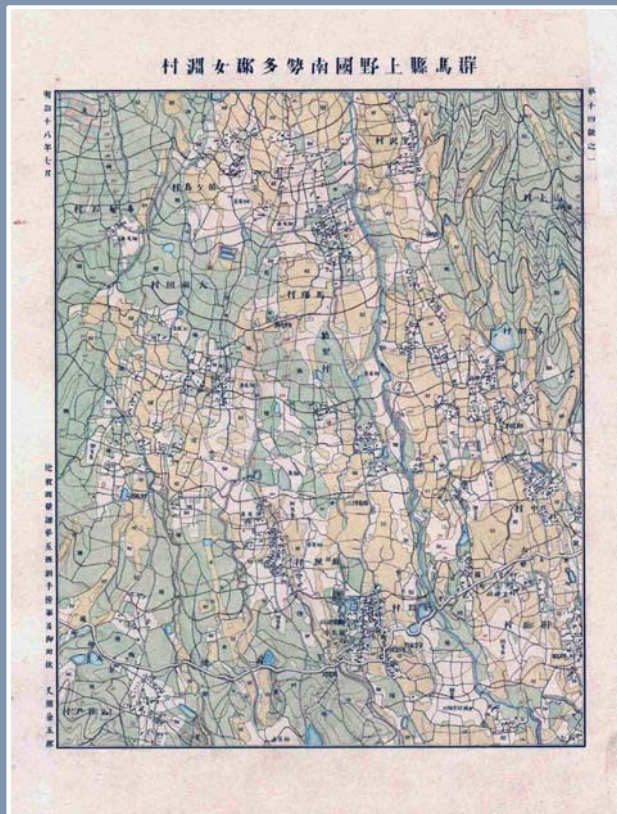


埼玉県武蔵国大里郡熊谷驛



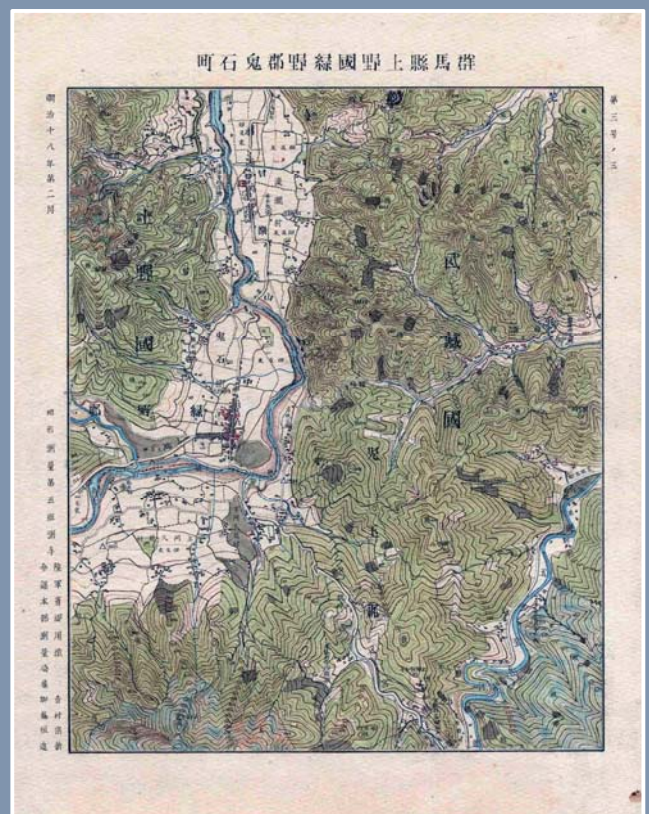
埼玉県武蔵国榛澤郡榑挽野

現在の深谷市の南部に当たります。南端に荒川が描かれていますが、川幅が広く暴れ川だった様子が分かります。森林の中に畑や民家が点在しており、東西に数本幹線道路が通っているのが確認できます。広大な関東平野の一角です。



群馬県上野国南勢多郡女淵村

赤城山南麓の標高100~300mの範囲で現在の前橋市東部及び桐生市の一部に当たります。現在は宅地開発が進み、森林が工場に変わり、鉄道が通っています。一方、粕川及びいくつかのため池に加え、群馬用水が開設されたことから、水田と畑が緩斜面に広範囲に拡がり、今日でも農業生産が盛んなことが窺えます。



群馬県上野国緑野郡鬼石町